

## 新年度の目標達成を祈念し、だるまに目入れ

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は4月20日（金）、ツインメッセ静岡（静岡市）の会議室において、平成30年度の隊務運営計画の示達後、各業務における目標の満願成就を祈念する恒例の「だるまの目入れ式」を実施した。

地本全隊員が見守る中、副本部長、各課室・地域援護センター及び地域事務所等の長それぞれが、平成30年度の目標を決意表明として披露した後、筆でだるまの左目を書き入れた。

今年度掲げられた目標には、「ピンチはチャンス。失敗を恐れずに募集活動を推進し、地域の住民から信頼される有能な人材を獲得する」「厳しい募集環境を克服するため、所員一丸となり募集目標達成に邁進していく」「今まで以上に活気ある事務所作りに努め、所員一致団結して募集目標達成に邁進する」といった、昨今の厳しい募集環境を反映したものが多かった中、静岡所は新しく作成したイメージキャラクター「駿河葵」を起用し、情熱を注いだ募集広報を繰り広げることを決意するなど、逆境に負けない強い意志が感じられた。

最後に本部長が本年度の全目標の完全達成を祈念し、黒々と左目を書き入れた。このだるまは、これから1年本部長室に飾られ、隊員の業務を見つめ続ける。

静岡地本は、平成30年度を活気に満ちた前向きな姿勢で取り組み、目標達成に邁進していく。



## 5万人来場イベント「由比桜えびまつり」で自衛隊を体感

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、5月3日（木）、由比漁港（静岡市）で行われた「由比桜えびまつり」において、板妻駐屯地第34普通科連隊（御殿場市）とともに広報及び装備品展示コーナーを開設し、自衛隊の活動をPRした。

朝方の雨と強風にもかかわらず、会場には由比特産の桜えびを求め約5万人の来場者が訪れ、駿河湾の旬の味を堪能していた。

迷彩色の車両が並んだ自衛隊コーナーにも多くの人が立ち寄り、展示された第34普通科連隊の軽装甲機動車、高機動車、偵察用オートバイに実際に乗車して、本物の自衛隊の装備品を体感していた。

静岡地本は、自衛隊に興味のある若者に自衛官採用制度や自衛隊の魅力などについて説明した。また、自衛隊の戦車などが写った缶バッジ・フェイスシールドの配布や迷彩服・防弾チョッキ・背のうの試着体験などを行った。20キロの背のうを背負った男性は、その重量に驚いた様子で「思っていた以上に重い。これを背負って訓練や任務を遂行している自衛官はすごい」と話し、家族とともにその姿を写真に収めていた。

静岡地本は、今後も地元根付いた大型イベントに積極的に参加し、県内の部隊と協力して自衛隊の任務や活動、魅力を地域に密着して発信していく。

